

経営比較分析表（令和6年度決算）

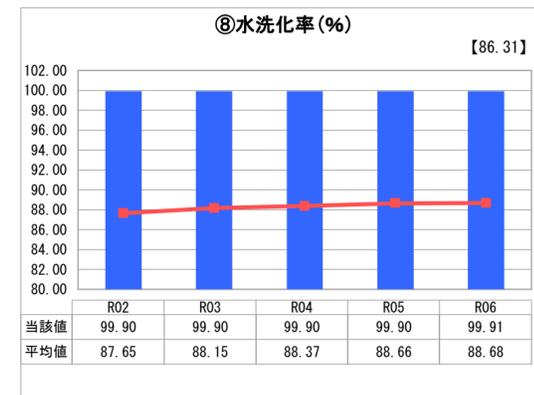
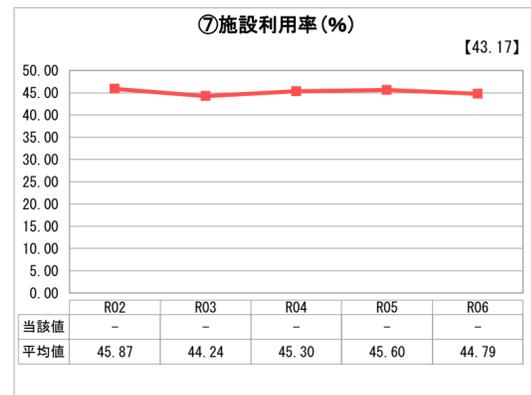
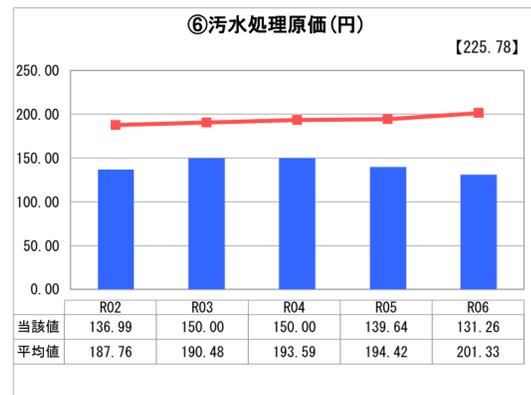
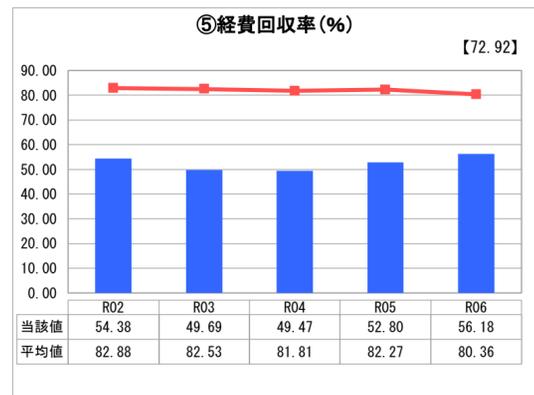
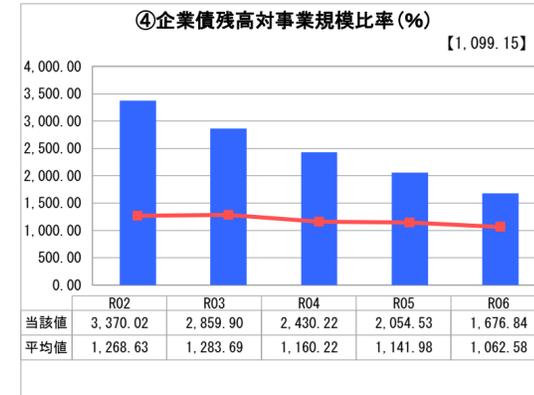
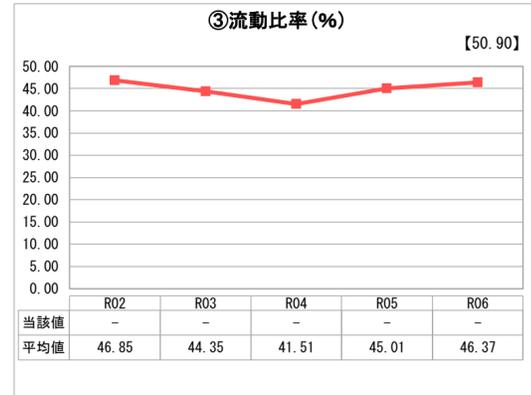
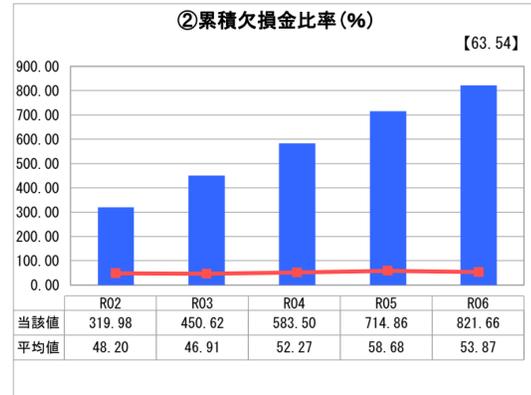
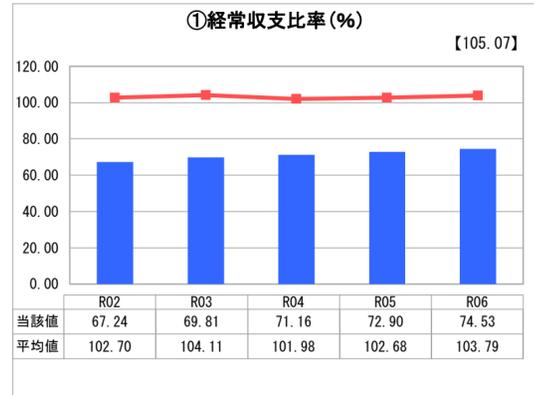
兵庫県 神戸市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	62.87	1.02	100.00	1,760

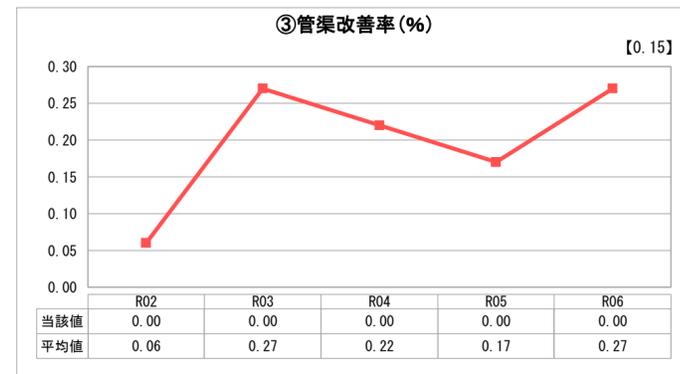
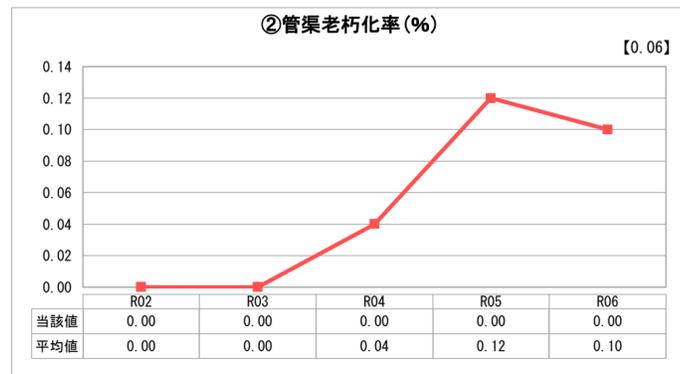
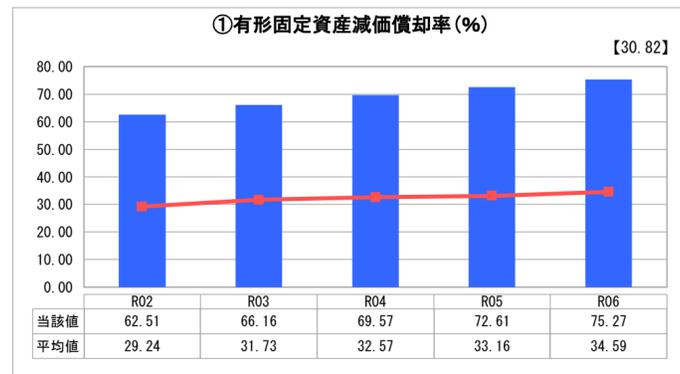
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,493,543	556.93	2,681.74
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
15,140	1.39	10,892.09

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

特定環境保全公共下水道事業は、市街化調整区域に立地しており、処理経費を下水道使用料でまかなえていない状況にある。ただし、特定環境保全公共下水道事業は、公共下水道事業と一体で経営しており、下水道事業全体の収支は黒字である。

2. 老朽化の状況について

法定耐用年数を経過した管渠はまだ存在しないため、管渠の更新は実施していない。一方で有形固定資産全体では老朽化が進んでいるため、今後の改築更新に備える必要がある。

全体総括

公共下水道事業を含めた下水道事業全体として、今後、人口減少による有収水量の減少等により、下水道使用料の減収が見込まれる一方で、老朽化した施設の改築更新費用が増加する見込みであるため、令和2年4月に使用料改定を行った。しかし、物価高騰等による影響で処理経費が増えていることから、今後の状況を注視していく必要がある。引き続き維持管理の効率化を進めると同時に、さらなる改築更新の平準化を図ることで、健全かつ効率的な経営を実施していく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。